

## 35 医療関係のミス減らすために～医療関係のインシデント分析から～

秩父学園 療育支援課 久郷英伸、虐待防止マネジメント委員一同

### 【はじめに】

本発表は令和6年2月1日に開催された令和5年度第2回虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会で報告した内容である。秩父学園では、ここ数年で医療関係のインシデントが増加し、入所児童が不利益を被った事例も発生している。

医療関係のミスは入所児童の健康・安全に直結するため、重大なアクシデントを未然に防ぐためにもインシデントの分析から各部署での対応策を考えるきっかけとすることを目的に検討を行った。

### 【医療インシデントの割合】

令和元年度から令和5年度の医療インシデントは、令和2年度まではインシデント全体の約20%、令和3年度・4年度は約30%、令和5年度は約40%を超え増加傾向となっている。

### 【医療インシデント増加の背景】

一般的にインシデントはイレギュラー時に起きやすいが、令和3年度から令和5年度にかけて、インシデント総数における医療インシデント件数が増加している。

医療関係に携わる部署は、主に入所児童の処方薬の管理や医療機関とのやりとりを担う園生医務室と、服薬の直接対応を行う生活寮である。園生医務室の状況として、令和2年度までは副看護師長が配置され、指揮系統の中心となる職員が固定されていたが、その職員の退職や他職員の異動など令和4年度までに園生医務室のメンバーが頻繁に変わっている経緯がある。

### 【課題の整理】

インシデントの内訳より、生活寮では「服薬に関する事」「配薬に関する事」のインシデントが多く、児童に直接薬を飲ませる前後や、学校との医療関係対応時に生じている。園生医務室では「配薬に関する事」のインシデントが多く、臨時薬等を配薬カートにセットする際に生じている。また、「指示・伝達・連絡に関する事」のインシデントが増加している。

### 【考察】

職員の退職や異動等で「指示・伝達・連絡に関する事」のインシデントが増加するということは、それまで経験則に基づく対応に頼り、組織的に動けていなかったのではないか。その結果、情報の共有が曖昧となり、現場での対応にも影響が及んだものと考えられる。

臨時薬の処方や学園内外での行事等でイレギュラーが生じた時ほど、職員間で声を掛け合いマニュアルの確認と手順の遵守を確実に行うことが求められる。

### 【まとめ】

今後の取り組みとして、学園全体として医療関係の対応マニュアルを見直し、各部署においては個人でなく組織的に動ける仕組み作りを強化していく。それらを定期的に評価・検討し、必要に応じて各部署へフィードバックを行い、再発防止に向けた実践を繰り返すことができるようなPDCAサイクルを構築し、医療関係のミス減らすことができるよう展開していく必要がある。